令和４年　　１０月　１日

令和４年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立平石北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和４年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

令和4年4月19日（火）

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，理科，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語，数学，理科，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語　　39人

②　算数　　39人

③　理科　　39人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，算数，理科の３教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

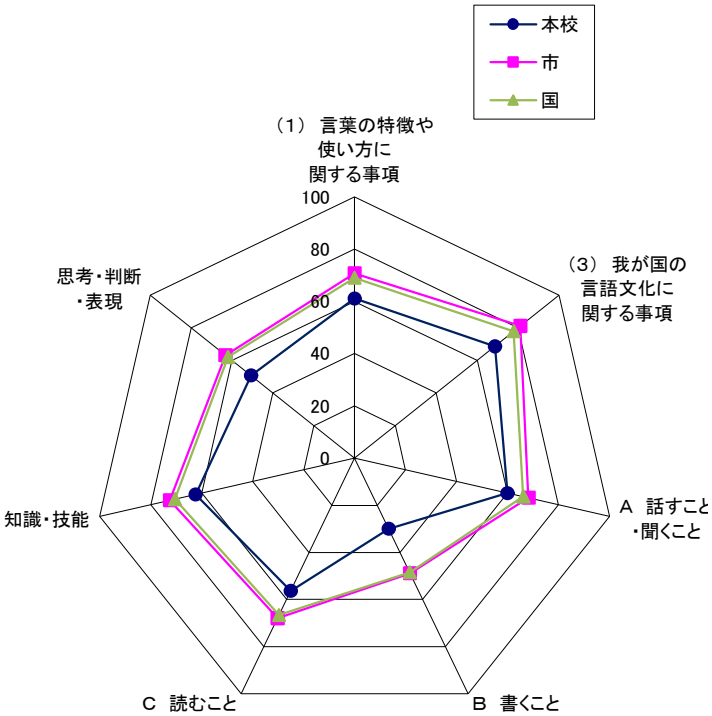
令和4年　10月　1日

宇都宮市立平石北小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度 本校	本年度 市	本年度 国
領域等	（1） 言葉の特徴や使い方に関する事項	61.1	70.7	69.0
	（2） 情報の扱い方に関する事項			
	（3） 我が国の言語文化に関する事項	68.6	81.1	77.9
	A 話すこと･聞くこと	60.0	68.2	66.2
	B 書くこと	30.0	48.9	48.5
	C 読むこと	56.4	67.9	66.6
観点	知識･技能	62.4	72.5	70.5
	思考･判断･表現	50.7	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
（1）言語の特徴や使い方に関する事項	・平均正答率は，市の平均を9.6ポイント下回っている。 ○「言葉には，相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える」設問の正答率は，市の平均と同等で県の平均を上回っている。 ●「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」設問の正答率は，全国や市の平均をどれも下回っている。 ●漢字を文の中で正しく使うことには，個人差が見られる。	・話し言葉と書き言葉の違いについて復習し，文章を書く際に意識できるように，繰り返し学習することによって定着を図る。 ・漢字をさらに正確に読み書きできるように，朝の学習やミニテスト，家庭学習において既習漢字の習得を図る。
（3）我が国の言語文化に関する事項	・平均正答率は，市の平均を12.5ポイント下回っている。 ●「漢字や仮名の大きさ，配列に注意して書く」設問の正答率は68.6%と，市の平均より12.5ポイント下回った。	・手紙文を書く際に，相手の読みやすさを意識して書けるように，気を付ける点を具体的に明示していく。
A　話すこと・聞くこと	・平均正答率は，市の平均を8.2ポイント下回っている。 ○「必要なことを質問し，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える」設問では，市の平均を5.7ポイント下回っているものの，80%の正答率であった。 ●「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い，自分の考えをまとめる」について設問では，正答率が40.0%であり市の平均を10.7ポイント下回った。	・話のテーマに対してペアやグループで話し合う場を継続して設けるとともに，相手の意図を捉えながら自分の意見と比べる活動の機会を増やしていく。
B　書くこと	・平均正答率は，市の平均を18.9ポイント下回っている。 ●「文章全体の構成や書き表し方などに着目して，文や文章を整える 」についての設問では，正答率が40.0%であり市の平均を16.9ポイント下回った。 ●「文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付ける」についての設問では，正答率が20.0%であり市の平均を20.8ポイント下回った。	・自分の主張をより明確に伝えられるような文章構成が考えられるように，課題作文や日記指導などを取り入れ，書く練習を日常的に行う。 ・文章に対する感想や意見を伝え合えるように，ペアやグループ学習を多く取り入れる。 ・他教科でも，必要な情報を集め，まとめる活動を取り入れる。
C　読むこと	・平均正答率は，県の平均を11.5ポイント下回っている。 ●「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」についての設問では，正答率が51.4%であり市の平均を19.4ポイント下回っている。	・普段から図書資料や辞典，新聞記事などを授業の中で活用し，必要な情報を読み取ったり，文章から伝わってくることや自分の考えを短い文でまとめたりする学習を意図的に取り入れる。 ・朝の学習の読書の時間を確保したり、図書の利用を推進したりして読むことの良さを味わわせ，学年の発達段階に合わせた本が読めるように指導する。

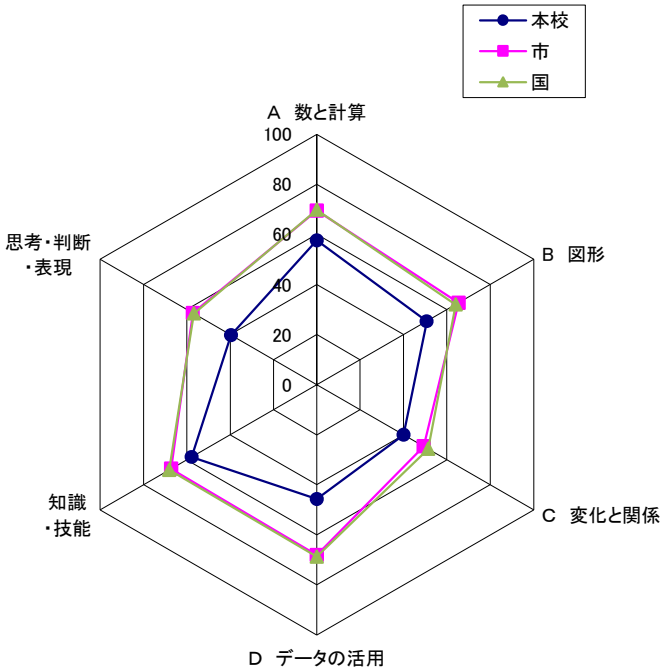
令和4年　10月 1日

宇都宮市立平石北小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A　数と計算	57.6	69.5	69.8
	B　図形	50.7	65.4	64.0
	C　測定			
	C　変化と関係	40.0	49.3	51.3
	D　データの活用	45.7	68.0	68.7
観点	知識・技能	57.8	67.3	68.2
	思考・判断・表現	39.6	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A　数と計算	・平均正答率は，市の平均を11.9ポイント下回っている。 ○「被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる」についての設問では，94.3%の正答率で市の平均を2.1ポイント上回っている。 ●「示された場面において，目的に合った数の処理の仕方を考察できる」についての設問では，17.1%の正答率で市の平均を18.3ポイント下回っている。	・文章問題に添って題意を読み取り正しく立式させたり，図や表，簡単な数を用いたりして求め方を式や言葉で表現させたりする活動を多く取り入れる。 ・公倍数やがい数など，目的に合った数の処理の仕方をしっかり習得し，活用できるようにさせる。
B　図形	・平均正答率は，市の平均を14.7ポイント下回っている。 ○「図形を構成する要素に着目して，長方形の意味や性質，構成の仕方について理解している」についての設問では，82.9%の正答率で市の平均に比べ，1.3ポイント下回っているものの，県の正答率とほぼ同程度を示している。 ●「示された作図の手順を基に，図形を構成する要素に着目し，平行四辺形であることを判断できる」についての設問では，34.3%の正答率で市の平均に比べ，22.7ポイント下回っている。	・面積を求める公式や図形の性質など，基本的な図形の知識の定着を図るとともに，応用問題にも取り組ませることで活用力を高めていく。 ・一人一台端末を活用して，プログラムを組んで様々な図形の作図をする活動をすることで，図形の性質の理解をより深められるようにする。
C　変化と関係	・平均正答率は，市の平均を9.3ポイント下回っている。 ●「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて，未知の数量の求め方と答えを記述できる」についての設問では，31.4%の正答率で市の平均に比べ，15.2ポイント下回っている。	・伴って変わる二つの数量から，変化のきまりについて考える活動を通して，比例の意味や比例の式について復習する。 ・算数だけでなく，理科や社会等の教科において，表やグラフを扱う際に，伴って変わる二つの数量の変化のきまりを考えていくことで，関数への理解や関心を高める。
D　データの活用	・平均正答率は，市の平均を22.3ポイント下回っている。 ●「分類整理されたデータを基に，目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる」についての設問では，40.0%の正答率で市の平均を25.7ポイント下回っている。	・算数の授業だけでなく，他教科においてもグラフや表から読み取ったり，グラフや表に表したりする活動を取り入れることで，目的に応じてデータの特徴を捉えられるようにする。

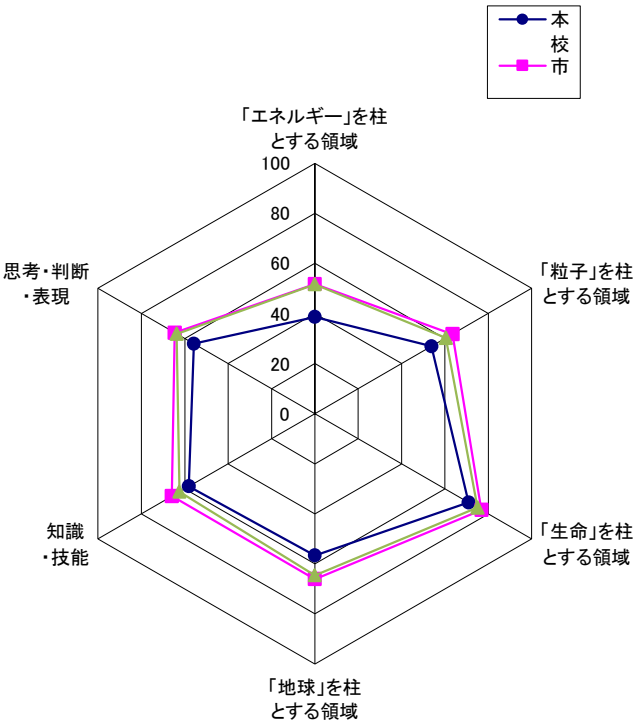
令和4年　10月 1日

宇都宮市立平石北小学校第６学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	38.6	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	53.7	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	70.9	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	56.6	66.1	64.6
観点	知識・技能	58.1	65.9	62.5
	思考・判断・表現	55.8	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	・平均正答率は，市全体よりも13.1ポイント下回っている。 ●「自分で発想した実験の方法と，追加された情報を基に，実験の方法を検討して，改善し，自分の考えをもつことができる」についての設問では，正答率が51.4%で市の平均正答率を17.6ポイント下回っている。 ●「実験で得た結果を，問題の視点で分析して，解釈し，自分の考えをもち，その内容を記述できる」についての設問では，正答率が11.4%で市の平均正答率を20.9ポイント下回っている。	・グラフや表，文章などの情報量が多い問題について，無回答率が高い傾向にある。類似の問題に取り組ませることで，多くの情報から問われている内容を読み取れるようにする。 ・日常の読書活動や読解活動から，長文の問題を正しく理解し，整理しお思考する力を身に付けさせる。
「粒子」を柱とする領域	・平均正答率は，市全体よりも9.8ポイント下回っている。 ○「メスシリンダーという器具を理解している」についての設問では，正答率が77.1%で市の平均と同じ程度である。 ●「水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している」についての設問では，正答率が45.7%で市の平均正答率より18.5ポイント下回っている。	・水の温度による変化について，実験を通して体験的に学ぶとともに，実験を通して分かったことを振り返り，ノート等にまとめる活動をさらに充実させていき，学習内容の定着に力を入れる。
「生命」を柱とする領域	・平均正答率は，市全体よりも5.9ポイント下回っている。 ●「自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に，問題に対するまとめを検討して，改善し，自分の考えをもち，その内容を記述できる」についての設問では，正答率が54.3%で市の平均正答率を14.7ポイント下回っている。 ●「提示された情報を，複数の視点で分析して，解釈し，自分の考えをもつことができる」についての設問では，正答率が68.6%で市の平均正答率をポイント11.2ポイント下回っている。	・実験から分かったことを考察し，自分の言葉で表現する時間を十分に確保するようにすることで，自分の考えを表現する力を育成する。
「地球」を柱とする領域	・平均正答率は，市全体よりも9.5ポイント下回っている。 ○「予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して，問題を解決するまでの道筋を構想し，自分の考えをもつことができる」についての設問では，正答率が68.6%で市の平均と同じ程度である。 ●「観察で得た結果を，問題の視点で分析して，解釈し，自分の考えをもつことができる」についての設問では，正答率が77.1%で市の平均を6.4ポイント下回った。	・問題に対して自分の仮説を考える時間では，問題解決までの見通しをもたせながら，じっくりと考えさせる活動を充実させることで，実験や観察の結果を，問題の視点で分析する力を高める。

令和4年　10月　1日

宇都宮市立平石北小学校 第６学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「困りごとや不安がある時に，先生や大人にいつでも相談できますか」という問いに対して，本校の肯定的回答は79.4%で，県平均を6.9%上回っている。また，「先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という問いに対して，本校で「当てはまる」と回答した児童は69.2%で，県平均を11.1%上回っている。学校での継続的な教育相談活動の実施や，小規模校のため教職員全員で児童と積極的に関わることができるという利点を生かし，今後も継続して指導していく。
○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という問いに対して，本校の児童100%が肯定的な回答をしている。また，「人が困っているときは進んで助けていますか」という問いでも，本校の肯定的回答は97.4%で，県の平均を5.8%上回っている。道徳を中心とした教育活動全体で引き続き指導を継続的に続けていきたい。
○「学校で，授業中に自分で調べる場面で，PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか」という問いに対して本校で「週1回以上（週3回以上，ほぼ毎日含む）」と回答した割合は89.8%で県の平均を8.9%上回った。授業に積極的にICTを取り入れて活用していることが分かる。また，クラスの友人との意見交換をする際にも積極的に使用していることが分かった。
●「読書は好きですか」という問いに対し，「あてはまる」と回答した児童は県平均が40.8%に対し，本校は25.6%と15.2%下回ってる。普段図書館利用については個人の差が大きい。読み聞かせや，家読など様々な方法で今後も本を読むことの楽しさや魅力について継続して啓発していく。

宇都宮市立平石北小学校（第６学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「基礎・基本を確実に習得し，それらを活用する力の育成」 ～楽しい・わかる・できる授業の実現～	基礎・基本の確実な習得（めあての提示と振り返りの重視），ICT等の有効活用した個に応じた指導の充実，言語活動や読解力向上のための読書活動の充実。	国語の「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」設問では，正答率が52.4%で，市と比べて9.7ポイント下回っている。 算数の「被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる」設問では，正答率が94.3%で，市の平均と比べて2.1ポイント上回っている。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査において，漢字や言葉など，基礎力に関わる問題の正答率が低い傾向がみられた。	基礎・基本を確実に習得し，それらを活用して課題解決をすることを通して，思考力・判断力・表現力等の育成を図る。	AI型ドリル等のICTを有効活用し，個に応じた指導の充実を図ったり，読書に親しむ場を設定して読書活動を推進したりすることで，漢字や言葉などの基礎的な力の習得を図っていく。 また，「できた」と実感できる授業の展開や自主学習ノートの指導を通して，基礎・基本を活用する力を育成していく。